

時事新報

繁文を省く

今の政費を削減して民の負擔を軽くして殖産の道を開くは固より願ふ所なれども目下差向の急は直接の負擔云々と論ずるに違はらず何れ切實先づ官民の繁文を除くの斷行ある可らずと我輩の所見にして江潮に異議もなれど如し讀者は本月二十二日の時事新報寄稿欄内に遺産相続願届書と題して一章と通讀せられて如何の感と爲したるや是れハ羽前國の事にして或る家の戸主死亡して其孫が相続するに付き表向の願届書圖面を合して三十五通と後日の證として手扣とも總計五十五通を要し之が爲めに代書料手数料に費するもの三圓を下らず戸長役場郵務所登記所に出入數里の路を往來し手問と渡し紙川と費し數日にして漸く事成るに及んで扱その相續の財産たる地面建物の價は如何と尋ねば價に十圓に過ぎず祖父の遺産を相續して同時に其遺産を空ふしるの談なり我輩は事の實際を目標せざれば敢て此寄稿の文を盡く信するにも非ず又日本國中の相續法悉皆斯の如しと斷定するにも非ざれば此種の事に關して近年著しく繁文を催はしたるは疑もなきことならん昔年あれば祖父死して子や孫が相続するは尋常一様にして村の名主庄屋に届け、書面が入用なれば庄屋の手にて認め異れ之を印する、印形がなければ是れも宜しくお類み申とて一切萬事立ちながら辨じ簡易至極の手續にて了したる大間違もなかりしに今日は十圓の貧乏世帯を相續するに何十通の書面と何圓の金と費とを以て時勢の變化も亦甚だしと云ふ可し左れば今日の有様は所謂人事の複雑なるものにして日本國中何千萬の人口は其姓名年齢を明にし何百萬の家屋は其大小廣狹を詳にし一目瞭然とれと尋ねば指すが如きものにして誠に美なりと雖も其美あるが爲先に何か大に實際に利することあるやと尋ねるに我輩を以てすれば之を見出すこと甚だ易からず日本國中の人更々實に二様に區別し衣食餘りありて豊に生活し左まで勞働もせずして安樂なる者は其だ少なく他は皆其日々に其其月其年限りの限を爲す者より外ならず全國十中の八九皆その意あれば之を制するの法も亦自ら其身分相應にして大抵の處まで所請御大法の大局に見通し唯みれをして勞働の時を得せしむ可きのみ繁文の法は美なり簡易の制は殺風景なり我輩敢て人事の美を好まざるは非ずと雖も之を強ひて勝つ可らざるものは繁文の一事にて之を得んとするに以て事を得るに勞働の時と自由とせざる可らず制度の殺風景なるに違はらず之を家作に喻へて云はんに座敷向の仕事部屋との如し座敷に客來もあるよとなれば其裝飾自から繁多にして美ありと雖も仕事部屋は實用專一にして甚だ殺風景なり今日の施政も實用專一にして未だ裝飾を思ふに違はらず時勢なれば假令へ現行の慣例にして座敷の如くなるも其裝飾を取除いて仕事部屋の備具に従はざるを得ず例へば前に記したる相續の一編に付き三十五通の書面を二十通に減するも實用に妨はなかる可し如何となれば座敷の相續機と外したればとて仕事部屋の實用には差支なかる可ければなり尙ほ之れを減して十通と爲し五通となし遂に通んで一通にせよか或は一をも用ひずして無筆の者ならば口上にて讀し唯後場の帳簿に記すばかりと

までに至る可きやも圖る可らず兎に角に施政の殺風景と恐れずして此手数を除き其體裁を廢し次第に簡易に過むこと座敷の裝飾を次第に取除いて座中無一物、純然たる仕事部屋の用を達して止むの覺悟に等しく暇中文華なく唯實用專一の決心あらんと冀望に堪へざるなり

以上我輩が机上の論にして或は實際に行はれざるもともあらん今日百般の施政を繁文なりと云ふも一朝一夕の出来事にあらず多年の變遷に隨て次第に成長したるものなれば今日其弊に心付きて明日これと全廢す可きにも非ずと雖も唯荷も其繁を知りたらんには試に其一と除く可し之を除いて妨なきに於ては又其二を除き二三四五六漸次に試みて最後に至り最早この上に簡易とありては施政の實際に於て運動す可らずとの極度に止まる可きのみ其趣は工場又は商店にて利益一偏の目的を以て人員を減し冗費を省き最後に工業商賣の差支と生せんとするの界に至りて止ざるもの如し我輩は今の施政として工場商店の風に徴せしめんとを警告するものなり

電報

○奉天使 高松二月廿六日午後特電 本縣書記官藤尾伍鹿氏は日本奉天使として田村神社へ参向したり
○臨時府會 大坂二月廿六日午後特電 當地の臨時府會は昨日を以て急閉會し来る廿九日より二十一年度の通常府會を開く管なり

雜報

○永山少將の歸朝 同少將には去年三月を以て日本を發し本月廿三日歸朝せしが際遊の地は第一米國を以て此に止まる三箇月夫より英佛獨の三國を経て露國に赴き此に五箇月間滞在し諸般の事を取調へ陸路滿州路より出で支那に三月餘を費せし由あり少將に至る所の諸國にて非常な優待を受けし由にて今其一二の話を記さん
○元來少將は屯田長の事あれば旅行の目的農事に關係あきは無し左れば少將が米國に赴きしも自ら理由ある事と申すの開も我北海道の開墾は前日に開拓使の設けありし時より多の成功を見るに至り米國に赴きし少將は米國農事視察の必要を感じて彼國に赴死し者にして少將は同國にても成るだけ北海道と氣候の同一なる地方に就き農事を取調べたる由あり英佛獨は三國は唯た通行せままでにて別に取調の用事もなし唯最も少將に感と興へ又愉快を覺へしめたるは露國コソツ兵の事ありと云ふ此コソツ兵ある者は其初土國にも及すれば露國にも抵抗我我國にて云はば上古奥羽の反服常なかりし蠻民の如き者にして其人種は如何ある者より成立つやと云ふに盜賊や被殺戸等即ち亂暴無智にして武勇に長たる者共なきに斯て爾來歲月を経るに露國必露の兵隊とばなれり會て一軍を遣ふを以て其技術を達せしめしめて却て露兵の武勇技術に驚嘆せしめらるゝと見ても其價値知るべきなり今や該兵の長官は必ず露國の皇旗を以て之に任する程の勢力を有し從て皇軍の兵を優待する頗る厚まると云へり而して此兵の諸部の長アママンと稱し親王は乃ち夏夏アママンの長なり此兵の本營は有名なるアマ川の近邊

にして國中所々に支營を設く少將は其方法組織の委細を取調べの爲りその本營に赴きし由なるが此日折悪く中將なる某長官は遊藝の爲先不在ありしも少將の來遊を聞かば歸營し更に該兵の事に明なる少將某を招き去兵師の訓練を示せんと少將の行に向つて非常の満足と與へしとの事なれば該兵は大抵驕馬の由にて其馬の動小とも云ふべき者にて餘り大なる方にはあらず然れども騎兵訓練の巧なるは恰も彼の曲馬師チャリチの操縦指揮、意の如くならざるはあき者の如く、奔逸まつゝる馬の上より、地上に取り落せし物を拾ふ様、二人の者が兩馬の上にて歩合ひつゝ、後傷者を運ぶ様、亂軍の間に掛違ひ往還ひ巧に奔馳する様は云ふよ及ばず其他何處となく兵士の勇氣凛然たる其容觀實に人をえて驚愕美交々胸中に浮びしめたり斯くて訓練の後騎兵の一回り少將を送りて旅館に至りし由あるが其際年の頃は十三四宛かか飾りたる許多の少女手々に持たたる花を取り少將目掛けて打掛けし祝意を表せしは是れ又優さし祝へなかりし體て少將は露國にての用と濟せ

カイペリヤを経て支那へ向ひしに其間は三頭引の一種粗末なる馬車に乗り、晝夜兼行にて驛毎に馬を替行く事あるが到着の處多數の人民皆祝意を表するが爲めにパノ或は鶏肉等を贈りしといふ夫より滿州の境に至れば露國よりは二十餘の兵を出して少將を送り清國より兵を出して同じく之を迎へり支那にても屯田長に面會せしに長官は訓練と示し遂一取調の便と與へしとの事なるが其兵は訓練式にて餘程訓練せる者なれば清國の爲め將來充分の用を爲すべしと云ふ其他支那に於ける大砲火藥製造の備もなると近時餘程の發達を爲せるよしなり

○會根海軍大尉 當時橫濱海軍軍法會議に拘置となり居る同大尉の嫌疑は紙上にも記しる通り井藤藤吉氏秘密出版の餘派なるべしなど風説すれども又別に嫌疑を指さたる原因のありするにや一昨日會根氏と懇意なる某省委員某氏の宅へ書部巡查數名出張し主人なる某氏の出動中の留守に海軍軍法會議の依頼なりとて會根大尉被控事件の義につき家宅を搜索する旨と申述し留守居の人と彼是談話し既に搜索に着手せんとする時に又も其筋の人來り見合せの旨を述べ引取りたるよしに風聞すれば同氏に他の被告事件につき取調を受け居る者なりと

○新式銃條器械統 リフナント、マンソン氏は此程英國兵軍備會に於て新式器械の利益と論せし後アマムス、レス、フ、ホル、侯は右器械の名義の不適當なるを演べ器械統とは仕掛けの大なるをいふ者なれば此れを區別せんが爲め器械統の名稱を適當なるべきを爲したり次に其銃丸の數と銃の中どの何れと長しとする中の點に至りアマム、マンソン氏の肝要あるを演べ右のマレー、リフ、マンソン氏を以て四ヶ番々の兵士が同利加の取手に於て器械の取調もしにも掛りし唯唯的中の長き小銃の爲りに器械統は入皆知ある者なく海軍省の器械統に中絶器械統のものと稱はば此故なるべし近頃小銃改良組の製造するマレー、リフ、マンソン氏は固方難くして的中外するもの心なくアマム、マンソンの造る前に向けて製造するも製造せし器械統十二インチの弾と生ずるもの且其反響力も少なく一發して兵士肩と撞き損を蒙らす等の憂ひなし今後此れを改良を加へなば其射中、彼の恐ろしき

マキム、リフ、マンソンの射的場に於る中を見るは

んと一英里の銃身を大にせ

にウチー、リス

張と同様の結の戦争は距離に離らすずひに難くらすず様に大なる變て特に印度の強於銃砲に易國より攻むべ別るく印度保めば其軍費のに犯さるるの云々とマンソ